

医療連携だより

STAT画像報告の取り組みを発信

医療技術部 放射線科 主任診療放射線技師 高橋伸光

2023年11月に行われた岩手県地域医療研究会において「STAT画像報告の地域医療への貢献」を発表し、優秀演題賞相当の殊勲賞を受賞しました。演題の要旨と取り組みを本紙にてご紹介します。



「STAT画像」とは、生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の所見がある画像と定義されます。診療放射線技師がこれらの所見を認知した場合に、直ちに医師へ情報を伝達する行為をSTAT画像報告と言います。日本診療放射線技師会では、医学放射線学会のご協力のもとでSTAT画像報告ガイドラインを整備し、全技師が報告すべき所見として、単純X線検査での肋間腔開大・縦隔への健側への偏位を伴う気胸、CT検査での腸管のair fluid level形成・腸管拡張など12所見を挙げています。

当院は、画像診断医が不在であり、古くから技師による「読影の補助」を積極的に行ってきました。しかし、以前は努力目標で、対象所見、報告方法などは技師個人の判断に委ねられていました。ルールを統一していなかったことから、脳出血を認知しても報告しない例や、仲介者を經由することで間違った情報が伝わった例もありました。そこで過去の反省をもとに、直ちに治療方針の決定を要する33所見を独自に設定し、認知した場合には主治医に遅滞なく報告することを徹底しました。更に成績の可視化、STAT画像報告支援アプリを用いたOn the Job Trainingの実施など技師のスキルアップと意識改革を図りました。これらの成果が徐々に現れており、3年間の評価において、報告率は79.0%から96.2%へ上昇、対象を報告し且つ報告内容が正しかったかを示す診療貢献度も72.8%から92.3%へ上昇しました。有効症例として、上腸間膜動脈閉塞症に関連する所見や内ヘルニア嵌頓による絞扼性腸閉塞の所見を報告し、救命に繋がった例を複数経験しています。

現在、STAT画像報告の実践は画像診断分野におけるホットトピックスです。いち早くシステムを構築し成果をあげた当院の取り組みは、国内多くの施設のモデルになるとも評され、今年は沖縄、大分、長崎、福岡、鳥取、広島、富山、石川、福島、宮城、秋田と各地で講演させていただきました。水沢から全国へ、私たちの取り組みと志が全国に広がることで、多くの患者さんを救う一助になればと思います。



年末年始のおしらせ

2023年12月29日(金)～2024年1月3日(水)まで休診です
急患の方は連絡のうえご来院ください。

着任医師紹介

2名の医師が着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。



菊池 祐医師（内科・消化器科）

診療日 火～金 午前

令和5年10月1日より、奥州市総合水沢病院内科で勤務することとなり、内科医師の菊池祐と申します。

弘前大学医学部卒業後は青森県で研修医として勤務しました。その後、県立宮古病院にて消化器内科医師として総合内科系や消化器系の様々な疾患の治療を担当させて頂きました。その経験を生かし、一般内科はもとより消化器系トラブルでお困りの地域の皆様のお役に立てるように奥州市の地域医療に尽力致します。至らない点もあるかとは思いますが、スタッフの皆様と連携しながらより良い医療を提供しますので、どうぞよろしくお願い致します。



吉村真弓医師（麻酔科）

令和5年10月より奥州市総合水沢病院麻酔科に着任しました、吉村真弓と申します。

主に全身麻酔で手術を受けられる患者さんの麻酔管理を担当しています。奥州市の医療に貢献できるよう精進して参りますので、よろしくお願い致します。

【おねがい】

- ・ご紹介いただく場合は、FAXによる診療申込み（予約）をお願い致します。
- ・当日ご紹介の際は、直接診療科の医師へご一報ください。

予約なく直接いらした方が長時間お待ちになったり、改めて来院していただくことが多くなっております。患者様が負担なく、スムーズに診察を受けていただくため、皆さまのご協力をお願いいたします。

奥州市総合水沢病院 医療連携室

〒023-0053

岩手県奥州市水沢大手町三丁目1番地

電話 0197-25-3833（内線257）

FAX 0197-25-4012（医療連携室直通）

ホームページ <http://www.mizhsp-iwate.jp>



当院ホームページはこちらから→

